

委員の職・氏名	担当部門	関係教育事務所	期 日	
			視 察 校	
福島大学教授 古 塚 安 好	現職教育・教育相談 教育評価・学級経営	安 達	10月11日(水)、10月12日(木)、10月13日(金)	
			原瀬小、旭中、本宮高	
福島大学教授 堀 口 知 明	へき地教育	南 会 津	10月3日(火)、10月4日(水)、10月5日(木)	
			伊南小、伊南中、只見高つつじ丘分校	
福島大学助教授 工 藤 正 悟	道徳教育・生徒指導 進路指導	東 白 川	10月12日(木)、10月13日(金)、10月14日(土)	
			石井小、鮫川中、東白農商高	
福島大学助教授 高 橋 キヨ子	家庭(小学校・高等学 校)、技・家(女子向き)	岩 瀬	10月16日(月)、10月17日(火)、10月18日(水)	
			鏡石一小、岩瀬中、岩瀬農高	

## (6) 視 察 報 告

① 日 時 昭和42年12月5日(火)

14:00~16:00

② 場 所 日興証券株式会社福島支店ホール

③ 視学委員による視察報告

### ア. 佐藤俊太郎委員

- ・あまりに高級な、しかもかたい文章を用いないと指導案にならないと考えている教師が多い。
- ・学区が広すぎることに由る多くの弊害が見受けられる中学校があった。
- ・教職員に対し、研修の機会を多く与えなければならぬ学校が見受けられる。

### イ. 口孝之委員

- ・学習指導はともすれば内容のら列にとどまり、進行は平板であって、要点の抽出、関係を明らかにして見せること等には欠けるものがあつたと見受けられる。
- ・学習指導法を具体的には握し、実際に役立つ方法を教育研究所と共同するなりして解決し、これを県下に流すがよからう。
- ・児童・生徒は記憶に長じる時期である。学習指導上、記憶の重視と、そのための訓練がなごりにされているきらいはないか。

### ウ. 古旗安好委員

- ・小規模中学校における現職教育の問題は、「教科間の異質性を克服し、共同研究態勢を盛りあげて」いくことであると思う。
- ・発表力をおさえ、コミュニケーションを妨げる結果になるような授業形態が少なくない。
- ・高校の教育課程研究会は、適切な指導助言者がないためにじゅうぶんな成果があがっていないという見方が教諭の中にあつた。

### エ. 堀口知明委員

- ・教職員の移動が激しく、しかも教職経験少ないものが多い学校が見受けられる。
- ・当該教科の免許状を持たない教員がいることは問題であろう。
- ・施設・設備として最低の条件をも保障されていない学校があるといつて差し支えない。

### オ. 工藤正悟委員

- ・一般的に生徒指導がそれ自体を目標とすることなく、

なんらかの他の目標の生徒を画一的に押しあげるための手段にされ易いことは問題であろう。

- ・相談室が完備されていないことや、専任担当者がいないことなどが、相談活動がふるわない大きな原因の一つであろう。

- ・生徒指導が、現実には消極的な側面たる風紀取締り、訓育、井行対策などとしてのみ機能し易いことはまことに残念である。

### カ. 高橋キヨ子委員

- ・指導過程において、よりくふうが欲しいと思われるものは、材料に対する科学的知識の指導であろう。
- ・教員の研修計画の具体的な実現にいつその配慮が欲しい。
- ・小学校家庭科の指導内容と中学校技術・家庭科女子向きの内容との一貫性について考えた場合も、教科指導委員がじゅうぶんに活躍でき、少なくとも同じ地域の小・中学校間の話し合いがなされるような配慮が望ましい。

## 第 5 節 道徳教育・生徒指導

### 1 道 徳 教 育

本県の道徳教育は、各学校および関係機関の努力によって漸次充実し、すぐれた実践がみられるようになってきている。特に、道徳教育研究学校を中心とする実践的研究は、きわめて深いものがあり、本県道徳教育の推進に大きな影響をあたえている。

しかし、実践の深さに学校差がみられ、一般的にみて、次のような傾向がある。

- (1) 道徳教育の全体計画が漸次整備されてきているが、まだじゅうぶんでない学校もみられる。
- (2) 年間指導計画および主題の展開案等の指導計画が漸次整備されてきている。
- (3) 道徳の時間の指導についての研究は深まってきているが、その反面道徳教育そのものが、ややもすると道徳の時間のみまかされる。
- (4) 道徳の時間の指導過程の組織化と類型についての研究が深められてきているが、その反面、指導過程が弾力性を欠き、形式化してきている。
- (5) 道徳の時間の指導資料がやや「読み物」にかたよってき